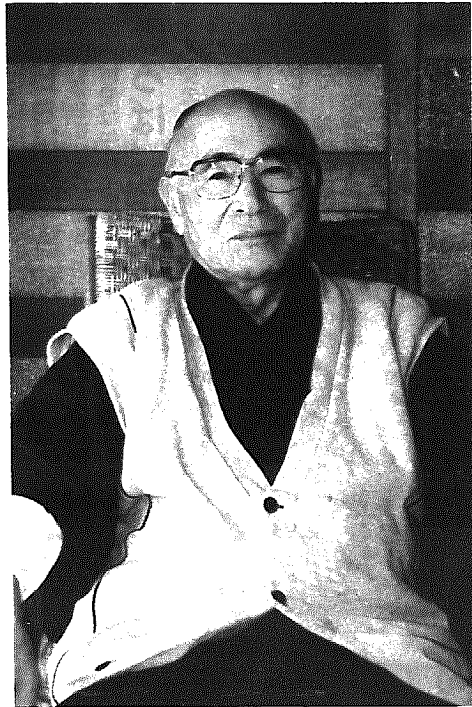


# 人 (124) 西洋なしの品種研究では第一人者

中学通り・七十八歳  
浅妻 力さん

「ル レクチエ」を知る人は多いが、その他の西洋なしの名前をいくつも答えられる人は少ないだろう。中学通りの浅妻力さんは、新潟県果樹振興協会に昭和六十二年まで勤め、また、その後も技術顧問として果実の普及に努める傍ら西洋なしの品種などを研究され、現在、民間では第一人者と言われている。



写真/浅妻力さん。浅妻さんは、西洋なしの調査研究が認められ、園芸振興松島財団から平成6年3月23日に振興奨励賞を受けた。この賞を受けたのは、県内では浅妻さんを含めて三人だそう。

言われる。その後の調査で、ルレクチエは明治四十年頃に中蒲原郡茨曾根村（現白根市）の小池左吉氏がフランスから苗木を取り寄せたことなどが分かり、また、ロクチ、ロクチエ、ルクチン号など様々な名前がよばれていたこれを今の名称で統一した。ルレクチエの名付け親的な存在である。浅妻さんは、永年研究された成果を、昨年「バラエティー 西洋なし」という本に纏められた。オールカラー二百六十五ページで百二十種を果実と花の写真で解説している。西

洋なしは、形や色が似た物が多く、その判別は難しい。そこで、西洋なしの生産者や試験・研究機関の人達から、品種解説の本を出版するよう要望されていた。それで、退職後七年をかけて出版する事になったという。本の出来ばえについて「多くの方から、礼状が届いて、その反響に自分でも驚いています」とおっしゃる。

西洋なしは、現在日本にあるもので百五十種位あるが、その特性があまり研究されていない。「西洋なしについて、まだ調査する余地がかなりあるので、これからも進めていきたい。また、ルレクチエは高い値段で取引されており、収益性の高いものなので、普及に努めていきたいです。黒埼町でも栽培してもらいたいですね」と今後の目標を語ってもらった。どうか、調査を続けられて、知られざる西洋なしの特性を公表してもらいたいものだ。

「人を集めるため、古町の皆さんを動員したら良いのではないか」と思い、ある人の伝を頼ってお願いしましたが、姐さんから「宣伝する洋ナシは私達がお座敷で食べているロクチよりもおいしいものですか」と聞かれ、初めてその名前を知りました。実際に姐さん方にバートレットを試食してもらったが、やはりロクチの方が美味しいと言われ、一体それはどんなものか大いに興味を持った事が調査の始まりだったと

## ほんの一冊

### 「語り合う医療」

COML編 創元社 1995

ささえあい医療人権センターCOML(コムル)編集による医療問題についての様々な人々の思いを集めたもの。それぞれは短く、登場する人の数は三十人にも上る。体系立てた主義主張を訴えるのではなく、現場の改革を声高に唱えるのではないが、読み終えた後に自分が患者になったらどんな医療を受けたいか、おぼろげながら形になっているのに気づく。ほかの誰のでもない自分の人生、それを大きく左右する病気とのかかわり、どうつき合っていくかは自分次第である。多くの人と語り合うことから患者としてどう生きていくかが見えてきそうである。(中山佳奈恵)



〈人の動き〉			
	前月比	前年比	
1月末日現在	(+13)	[+138]	
人口	24,210		
男	11,866 (-5)	[+60]	
女	12,344 (-18)	[+78]	
世帯	6,984 (+17)	[+216]	
1月1日~末日			
出生	19	58	転入
婚姻	17	45	転出
死亡	19		



十年ぶりの大雪から解放され、なんとなく春めいてきた今日のごころですが、いかがお過ごしでしょうか。家の前の雪かきから解放された編纂子は解放感に浸っていますが、反面、運動不足になる冬場、肥るのではないかと今度はそっちが心配となってきました。もう少し気候がよくなったら、外で体を動かさなきゃと思うだけで今年も何もしないんだらうなと思っている今日のごころです。

◎さて、来月号は、早いもので四月号となりますが、平成八年度の予算などをお知らせしたいと思います。

